平成 24 年 3 月 1 日
第 58 号

# やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

# 農環境向上に二本立ての交付金制度

## 共同活動交付金は第２期分 20%減額
## 向上活動交付金は今年度と同様



「漏水パイプのつなぎ目は大丈夫か」施設の点検は欠かせない

平成23年度も終に近づきましたが、八方原の環境を守る会の活動も5年目の区切りの年の決算をする時期となりました。県の農業事務所では来年度以降の交付金の状況などについての説明会を保健センターで2月15日に開催しました。

今年度は共同活動交付金に加えて、向上対策交付金制度がスタートしました。次年度以降もこの二本立て支援は続きますが、交付金額が一部変更されることが分かりました。共同活動支援については5年を経過して二期目に入ることになります。交付金は5年を区切りとして減額されることになりました。八方原の環境を守る会は制度がスタートした平成19年から取り組んできましたので、平成24年度は6年目に入ります。従って新たな交付額となり、交付額は従来の20%減となります。

向上対策交付金については従来の通りです。この交付金についても5年間基準ですが、共同活動の交付金制度と年限を会わせるために向こう5年間、つまり平成27年まで継続されることとなりました。



200 人以上の関係者が参加した説明会

二つの交付金は大まかに分けると、水路周辺の草刈りや農道の整備などを自分たちで力を出し合って行うものを共同活動交付金で対応し、専門業者にお願いして重機を使用するような作業の場合は向上対策交付金ということになります。

県全体の取り組みでは共同活動支援に取り組んでいる活動組織の中で向上対策に取り組んでいるのは約4割です。事務作業の煩雑などで新たな交付金制度ができても、簡単には取り組まないという組織が少なくないようです。そのため、事務の簡略化が求められており、手続きなども簡略されるようです。

当会では、水路や農道周辺管理作業などの保全活動や、年次的に水路の改修を進めていくことにしていますが、突発的なものなどへの対応もあるかもしれませんので、機動的に活動したいと考えています。

引き続き農地と周辺環境の保全に努力して参りますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

代表 原田憲一郎


この通信は http://www.harataco.org/sigeki/ で読むことができます

## 路側の補強工事で安全確保（八方原区）

法定外公共物整備事業という難しい名前の事業があります。河川や道路などの法律で定められたもの以外の小規模ながら、公共性の高い施設の整備のことを指すものです。当地区では農地の北側にある配水路の整備にもこの制度を利用しました。今年度は農業用水の送水管のある通称「横土手」の路肩の部分整備を行いました。

工事箇所は斜面が崩れやすい状況となっており、放置すると道路の縁が崩落してしまう可能性があったところですが、その部分の特に危険性の高いところを手当しました。



崩落防止のために新たに作られた構造物

## いよいよ始まった繁茂竹林の伐採



伐採が進む「タケノコ山」密集した竹林の状況が分かる

2月初めからチェーンソーの音が鳴り響き始めました。地区の東側の里山に繁茂する竹林の伐採が始まりました。県の繁茂竹林伐採事業が始まったのです。

竹林の繁茂は山口県全体に広がっており、当地区でも手がつかないままでした。森林は防災や水源など重要な機能があります。そうした森林を健全に育てていくために「やまぐち森林づくり県民税」が導入されました。

かってはタケノコ山としてテレビの全国放送にも登場したタケノコ山も、管理ができなくなると、鬱蒼とした竹林となってしまいました。竹は成長が早く他の樹木などを追い越して上空に葉を広げ他の植物に光が当たることを妨げるようになります。その結果、竹以外は次第に衰えてしまいます。

さてこの伐採された竹はどうなるのでしょうか。一部は地区外に搬出されているとのことですが、竹は利用が進んでいません。燃やして発電するという試みも行われていますが、事前に粉砕する必要になるなど、簡単ではありません。萩市では家具の材料への試みも行われていますが、ヒット商品を目指しています。当地区の竹も何か利用ができると良いですね。

## 厳しい運営の中郷八幡宮

地区の氏神様として親しまれている中郷八幡宮の節分祭が2月3日に行われました。当日は朝から雪の舞う寒い日となりましたが、多くの方々がお詣りされました。

この節分祭を行うためには運営費用が必要になります。その費用は年度始めに各戸にお願いしている神社費と、節分祭に向けてのご寄附で賄われました。あらためて御礼申し上げます。しかし、運営そのものは年々厳しさを増しています。祭だけでなく社や境内周辺の維持管理には費用がかかりますが、それをどう捻出するか神社総代の話し合いでは、すぐに行き詰まってしまいます。とはいえ地域の歴史の詰まった神社が廃れてしまうことは、寂しいことです。

地区には岡田天満宮や八方原神社（荒神様）の祠が残っていますが、ご神体は中郷八幡宮に置かれています。

神社地区総代　原田茂樹



家族連れなどが次々に参拝、福くじはどうかな